



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                     |                                                                                                                                                |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title               | Cultural Transmission and convergence processes in Paleolithic of Northern Asia and Beringia :<br>On the basis of microblade industries        |
| Author(s)           | ウラノブ, アレキサンダー                                                                                                                                  |
| Degree Grantor      | 北海道大学                                                                                                                                          |
| Degree Name         | 博士(学術)                                                                                                                                         |
| Dissertation Number | 甲第16964号                                                                                                                                       |
| Issue Date          | 2026-03-25                                                                                                                                     |
| DOI                 | <a href="https://doi.org/10.14943/doctoral.k16964">https://doi.org/10.14943/doctoral.k16964</a>                                                |
| Doc URL             | <a href="https://hdl.handle.net/2115/99808">https://hdl.handle.net/2115/99808</a>                                                              |
| Type                | doctoral thesis                                                                                                                                |
| File Information    | Aleksandr_Ulanov_abstract.pdf, 論文内容の要旨 <a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a> |



# 学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（学術）      氏名： ULANOV Aleksandr

## 学位論文題名

Cultural Transmission and Convergence Process in Paleolithic of Northeastern Asia and Beringia:  
On the basis of microblade industries.

（北東アジアとベーリンギアの旧石器時代の文化伝播と文化収斂過程：細石刃石器群に基づいて）

## 本論文の観点と方法

石器の小型化は、人類の行動変化や環境適応能力を推測する上で重要な要素とみなされてきた。人類進化においては、石器製作技術をモードとして捉え、小型石器の出現を解剖学的現代人の出現と関連付けて理解する見解が有力視されてきた。近年では小型石器の発明自体を必ずしも解剖学的現代人の出現と結びつける必要がないという新たな説も提起されている。しかしながら、その仮説の立場から見ても、石器の小型化とその多様な運用は、解剖学的現代人特有の行動と結びつけて理解する見方は引き続き支配的である。

石器の小型化現象は、地球上の各地で観察される現象である。細石刃という独特の形態を持つ石器とそれを製作する技術の成立と運用、技術知識の共有は、石器研究において古くて新しい研究課題であり、現在も多く研究者の関心を集めている。とりわけ北半球の中でも環北太平洋沿岸地域における石器の小型化現象とそれを生み出す技術の成立と広がり、この考古学現象の背景にある人類集団の環境適応行動と移住や拡散と結びつけられている。ユーラシア大陸から南北アメリカ大陸への人類集団の移動と拡散は、そのスケールの大きさと、一定の時間枠の中で生じた動きとして、注目を集めてきた。南北アメリカ大陸へ移住した初期人類集団の系譜と彼らが保持した道具技術の理解は、現在でも南北アメリカの考古学界が高い関心を寄せる研究テーマであり続けている。

申請者は、北東アジアとベーリンギアというユーラシア大陸と南北アメリカ大陸とを繋ぐ地域を対象に、最終氷河期最寒冷期前後に出現する細石刃石器群の遺跡単位での個別分析とそれぞれの技術情報の特性、また技術が個人から個人あるいは集団から集団へ伝達（伝承）される状況を明らかにすることを目指している。具体的には、当該地域において多様性を持って展開した細石刃製作技術の中から当該地域において広範囲に見出すことのできる「湧別方式」と「峠下方式」を抽出し、それぞれ異なる細石刃製作の技術的プロセスを細石刃核の整形技術の差を比較し、その技術伝達方法の違いとして理解する視点を提示した。更に二つの細石刃製作技術の背景を東シベリアの2遺跡、中国東北部の2遺跡、朝鮮半島の2遺跡、北海道島の2遺跡からの出土資料を対象に、自らの観察所見と実験データに基づいて技術の文化的拡散と文化的収斂の違いとして理解している。細石刃の原材となる細石刃核の整形過程と細石刃製作過程の違いにより設定されている「湧別方式」と「峠下方式」の間の差異を複雑な技術情報の学習を伴う文化的伝達と、一定の条件下で出現する独立現象としての文化的収斂として提示することが、本論文の主要なテーマとなっている。

## 本論文の内容

序章では、細石刃という小型石器の出現の背景と、その環境適応行動との関係、地理的空間の広がり、特性、解剖学的現代人の出現との関連性、北東アジアから北アメリカ大陸北部への拡散現象、技術的複雑性と人間集団の社会的・技術的発展との相関、先史狩猟採集民の経済行動から見た意義について説明している。加えて、本論文の中核に据えて検討する文化的拡散と文化的収斂の関係、本論文で使用する分析手法についての説明を行ない、本論文の意義を述べている。

第1章では、北東アジアからベーリンギアにかけての地域における細石刃研究の学史的検討を行っている。ロシア人研究者による初期の細石刃の定義、アメリカ人研究者によるユーラシア大陸から北アメリカ大陸への人類集団の移住と結びつけた解釈、細石刃や細石刃核の用語概念の成立と

解釈の変遷をロシア語、英語、日本語の文献を駆使して検証し、多言語間での用語概念の借用や変換、方法論的な検討や研究手法の変遷を検討している。

第2章では、本論文の理論的枠組みとして、①細石刃の技術的定義と文化的伝播と文化的拡散の比較検討、②石器研究における文化的拡散現象の観察手法、③接合手法を用いた技術復元の有効性、④細石刃の技術復元と文化的収斂の検証方法について解説している。研究の方法としては、接合手法を用いた細石刃核の整形方法の復元、細石刃剥離技術の打撃法の比較検討、フラクチャー・ウィングの手法を用いた分析検討、使用実験と使用痕分析の検討を行なっている。また分析対象とした朝鮮半島（ホピョンドン遺跡、ウォルピョン遺跡）、中国東北部（和龍大洞遺跡、樺陽遺跡）、東シベリア（バリショイ・ヤコリ1遺跡、ママカンVI遺跡）、北海道島（オルイカ2遺跡、オサツ2遺跡）についての概要と出土石器群の特徴を直接観察に基づいて提示している。

第3章では、各遺跡において観察した「湧別方式」と「峠下方式」の細石刃石核の整形法の変異と普遍性を比較し、それぞれの遺跡出土の細石刃に残された使用痕からその使用方法の差異の抽出を試みている。またそれぞれの技術変異と石材との関係性、立体的視点からの石材消費行為としての石器形態の変化の観察、細石刃自体の立体的差異と機能との関係についての検討を行なっている。

第4章では、第3章で提示した手法に基づく、「湧別方式」と「峠下方式」による細石刃核の整形過程とそれぞれの方式における細石刃製作過程の復元と比較検討を行なっている。その上でそれぞれの細石刃製作の一連の工程を計画的な製作技術と便宜的な製作技術に区分し、計画的な製作技術と関係する管理的道具としての細石刃が、移動性の高い集団が求める効率性と信頼性と結びついており、「湧別方式」はその典型事例であることを指摘している。一方で「峠下方式」については、便宜的な製作技法とまでは言えないものの、「湧別方式」との対比により、細石刃製作の過程の精緻性が低いことを指摘している。この分析結果から二つの細石刃製作の手法の背景にある製作技術の文化的情報の伝達方法に共同体内部での学習方法の違いを見出している。すなわち、「湧別方式」の時空間的広がり背景には、その複雑な文化的情報を継承し実践するために社会学習が不可欠であり、共同体内部における教授・模倣・実践が行われている可能性を明らかにしている。その一方で「峠下方式」では、高い変異性と柔軟な製作過程が認められることから、「湧別方式」のような体系的な社会学習とは異なる個人レベルでの独自の試行錯誤に基づく技術運用がなされていたことを指摘している。

結論では、分析対象資料の中でも、とりわけ北海道島のオルイカ2遺跡と東シベリアのバリショイ・ヤコリ1遺跡の出土資料の直接観察と検証に基づき、北東アジアからベーリンジアの広範囲の領域に広がる「湧別方式」は、この技術を保持した共同体内部の社会学習を基礎とした文化的伝達の結果と評価した。一方で同様に同じ領域に併存する「峠下方式」については、朝鮮半島のホピョンドン遺跡やウォルピョン遺跡の資料の直接観察と検証に基づき、単一の標準化された技術伝統ではなく、文化的収斂によって朝鮮半島、中国東北部、東シベリア、北海道島の各地域で独自に発生したものと評価した。本論文の結論としては、北東アジアからベーリンジアに出現した細石刃製作技術が安定性と動的現象の両側面を示しており、その背景に異なる文化的情報の伝達が反映されていること、その背景に、先史集団の環境適応行動があることを推定している。